夫人ハ生類の第一ニして象牛ハ大なりと雖智と云ふ事を知らず 然ハ智慧ハ人の宝ニして智の少く生れ得てハ心の教ルる事智ある人の如くならず

智ハ生得少く生れ得る人の智を培んとて書を讀ミ古人の始乳得ハ聖賢の志しと知りて雖智ハ益々明ニ智を培んと多く案ずれ

ハて智生れ稟る者なれハ其愛ニ安し 居ハ明ハ己一人と勝むると云べし 扨亦天地人三才の窮理を究しむる時ハ仰ぎ観る天の高

高大なる天地の至て小なる事粟一粒ニも比すべし 其微小なる地球北廻を住居ル人ハ僅ニ目ニも見へざる密塵の如き者ニして吾人

ニ志れ其密塵と云ふ事て知らず甚大いなる者と思ハ小なると知らざる也 人の一生涯とるれハ一瞬よりも疾く又少し永く

ならんぞ白き馬の走るを戸の隙より見るがぬし 其上一生ハ夢の現なる物にて西行の寄ル旅寝して夢の浮世て又夢

然るを云がぬし 人の一生ハ戯と諺くとしる夢也 其夢も安居しる夢ハ少しとかく驚き危ぶむる事多し 一年の

中ニ肌持チの能ハ美日ハ五六日もあるべし 十日とハなし 其外ハ抔雨暑寒又ハ曇天鬱是愁ひのミ多し 夫ヨ又五彩の

色ニ迷ひ耳ニ聴きて歓び又ハ悦び皆眼ニ映り耳ニ響くる事ニて其映り響くと感ずる者ハ神経とて脳中ニあるあぶくの如き者ニて

目ニも見へぬ小虫ニ至るまで人と同し機なる蜉と云虫ハ一時を一生とし 蝉ハ其夏より秋ハ九十日を一生と思へり 其短き年れ

其ハ短くて天地の開闢しる後ニして人の目ニハ長く天地の変化と見て人ハ大きなる者と思へハ愚と云べし 一万年も至れと雖

地球も傾きいかにも吾日本乃唐天竺も亡滅するる事山上の貝石を見て知るべし 其なるに戦争を起し貪合噬呑暴乱

の世ニハ名利と以戦ひ是皆智ある者上となり無智の者下となる 天より見主ハ人の貴賤なし 今貴人と云ふ者先祖ハ智ある人の子

孫なり 泰平の世ニハ愚と雖亦を保つべし 乱世ニハ愚者忽ち亡ぶべし 智ある者常あり 是天より稟生れ家にて先祖より連綿と

五傳て生き得る者なれハ死しても得べからず 然ハ己て一人ニ能此天地と不思一生涯を安居すべし 之と道徳と云 壮年の者少なかし

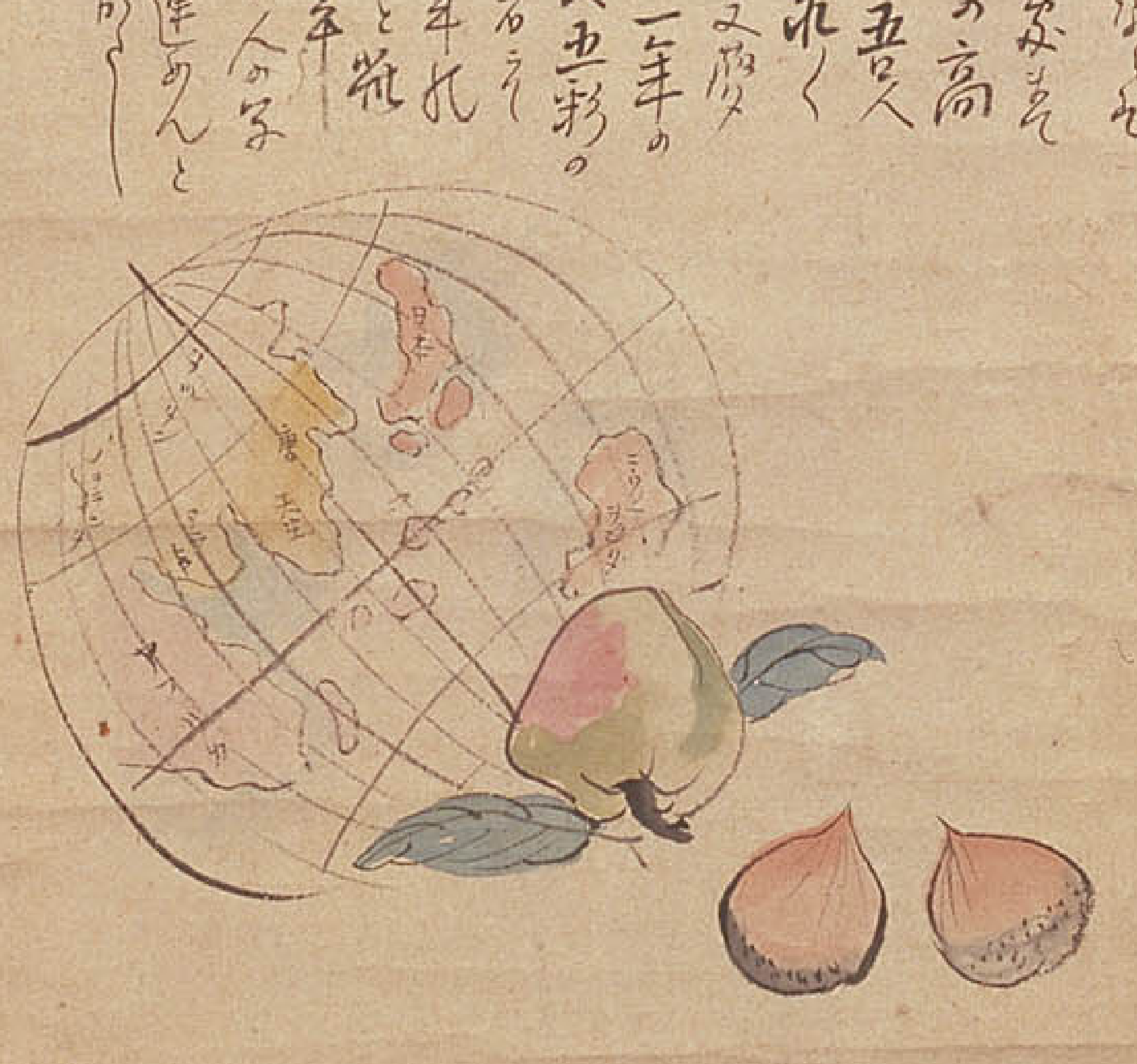
終ニ老年となり粃大理を知ると雖老ても不知者餌くるを必知るを得えし

文化己巳冬十月

上天子下至庶まて世界乃
火水の中ニ事生て苦む

梨ニなると梨引と云も
栗ニなると栗引といふ

斯波峻道人



文庫8 B 167
司馬江漢地球図